

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3770104218		
法人名	ひまわり介護 有限会社		
事業所名	グループホーム ひまわり		
所在地	高松市鬼無町藤井126-1		
自己評価作成日	平成27年1月9日	評価結果市町受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/37/index.php?action=kouhyou_detail_2010_022_kani=true&amp;JiryousoCd=3770104218-00&amp;PrefCd=37&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/37/index.php?action=kouhyou_detail_2010_022_kani=true&amp;JiryousoCd=3770104218-00&amp;PrefCd=37&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成27年2月14日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>家庭的な雰囲気、環境の中で看護と介護が力を合わせ、利用者様が安心・安全に暮らせるような生活環境の提供。 利用者さまや職員がリラックスして過ごせるよう、情報交換や話し合いがしやすい環境作りをしています。</p>
---

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

<p>木造平屋建の事業所は、内装に土壁を使用するなど、昔ながらの民家を感じさせる。屋内には絵画やプリザーブドフラワーが飾られ、利用者は生活感や季節感を感じながら、ゆっくりと過ごすことができる。家庭的な雰囲気を大切にするため、職員間のコミュニケーションに努め、毎朝、コーヒータ임을設けたり、月に1回のミーティングや食事を随時行っている。また、地域との交流にも努めており、自治会に入会するとともに、職員が地域の清掃活動に参加したり、地域の祭りや防災訓練等に積極的に参加している。家族が面会に来るとお茶を出し、利用者の近況を説明するなど、家族との信頼関係も大切にしている。</p>
---

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
0:00	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員みんなで考えた理念のもと利用者様が安心、安全に過ごせるよう支援に取り組んでいる。	現在の理念は、3年前に職員で話し合い、わかりやすいものに作り変えたものである。職員は、毎朝のコーヒータイムで理念を意識しながら意見交換をし、理念の共有に努めている。	理念について、職員がどのように考えているか、日々どんなことを心がけているのか対話することで、理念の理解がさらに深まり、理念の浸透が進むことを期待したい。
0:00	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ご近所の方に、プリザーブドフラワーを教えに来てもらったり、近くのバラ園に見学に行ったりと利用者様が地域に溶け込むようにしている。	自治会に入会し、職員が地域の清掃活動に参加している。また、地域の祭りや防災訓練等に積極的に参加したり、散歩中に近所の方に挨拶をするなど、地域とのつながりを大切にしている。	
0:00		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所の行事や防火訓練の際には案内書を出して、参加していただき認知症の方への理解や支援をお願いしている。		
0:00	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の時に次回の日時を決め、地域住民の方がなるべく参加できるようにお願いしている。会議での話し合った内容を職員に周知しサービスに活かしている。	2か月に1回、民生委員や自治会長、市担当課、地域包括支援センター職員等が参加して、開催している。メンバーからは災害時の対応について、アドバイスを得たり、手洗いの指導等があり、運営に活かしている。	利用者本人や家族の参加を含め、多様な分野からの参加を検討し、会議が事業所のサービスの質向上や課題の解決に向けて、より効果的なものになることを期待したい。
0:00	(4)	○市町村との連携 平成27年2月14日	利用者様の現状を報告し相談、指導を受け連携を取っている。	市担当課や地域包括支援センターとは、日頃から報告・連絡・相談に努め、関係を築いている。	
0:00	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、日々のミーティングで話し合い、職員一人ひとりが身体拘束について理解できるよう指導している。	身体拘束に該当する行為について、ミーティングノートに貼付するとともに、業務の中でその都度指導している。また、月に1回のミーティングでも話し合うことがある。玄関は施錠していない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	些細なことでも、虐待に繋がるということを職員みんなに理解してもらうため、日々話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について理解するため話し合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様、家族様がわかりやすよう、十分に説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に家族様とゆっくり話ができるようにし、利用者様ともリラックスして話ができる時間を作り運営に活かしている。	家族が面会に来るとお茶を出し、利用者の近況を説明するなど、家族との信頼関係を築いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員とは定期的にミーティングや食事会をし、事業所のあり方や方針を理解してもらったうえで話し合い、共有している。	毎朝、15分程度コーヒータイムがあり、その時にリラックスして意見交換できる。また、月に1回のミーティングや時々食事会を持ち、職員が意見を言いやすい雰囲気づくりに努めている。また、入社時に、些細なことでも意見があれば言ってもいいことを伝えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が生き生きと働けるよう、職場環境には配慮している。また、職員の要望などアンケートを取り、一人ひとりがやりがいを持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員には研修に行く時間を確保し、研修後には職員で話し合いを一人ひとりのスキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所の集いなどには積極的に参加し、情報交換や質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時より事業所の環境に馴染んでいただくまで、細やかな配慮や見守りをしその方に合った声かけを行うようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事業所の見学をしていただき、ケアの取り組み方をご本人、家族様と面談し相談しながら今後の方向性を見極めながら進めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談の時から本人、家族様の要望を優先しその都度対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様と職員が家族のように同じ目線に立ち、信頼し合えいつでも話し合えるような関係が保てるよう心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様の意見、要望を大切にし本人と家族の絆が保てるよう、事業所内の行事には参加を呼び掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様が今までになじみのある店などのアンケートを取り情報を収集し、その場所や人などの関係が継続できるようにしている。	利用者に思い出の場所や行ってみたい所、若い頃に何をしていたのかを聞き、その人の馴染みの場所や人間関係を把握するようにしている。また、家族への電話や年賀状、暑中見舞い等を出せるよう支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やレクリエーションの時には利用者の座る場所にも配慮し、発語の少ない方の隣には職員が座り孤立しないようにし、利用者同士、職員が深く係り合いを持てるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も、それまでに築いてきた関係を大切にして、フォローしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様一人ひとりが、その人らしく暮らしていただけるために利用者の思いや希望を把握し、その都度ミーティングを行い、話し合いをしている。また、利用者の表情などからも思いを把握できるよう注意深く観察している。	おやつの時間に隣に座って、利用者と話をしたり、家族からも聞くなど、一人ひとりの思いや意向を把握するよう努めている。また、利用者の表情からも把握できるよう観察している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様の生活歴を職員みんなが把握し、その人らしい暮らし方ができているか日々の会話の中で観察するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の生活ペース、体調などを職員が把握し、できることを積極的にしていただくため、声かけに注意している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	週に一度の往診時の医師の意見を本人、家族様にも伝え、希望、要望などを職員で話し合い、本人が安心して暮らせるよう介護計画を作成している。	日頃のミーティングでの職員の意見を参考にしつつ、担当者会で本人・家族の意見を聞き、計画を作成している。また、往診に来ている医師の意見も参考にしている。見直しは6か月から1年ごとに行っている。	介護計画は、利用者・家族の状況やニーズの変化にかかわらず、毎月新鮮な目で確認するとともに、計画を職員全員が共有できる取り組みが望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員や家族様との情報を共有し話し合いを行いながら、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	決まった業務手順に捉われないように、その時その時の利用者様の気持ちを大切にサービスができるよう職員に指導している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の防災訓練、お祭りなどの行事に参加しバザーなど楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望するかかりつけ医師に受診できるよう支援し、受信結果は家族様から報告を受け情報を共有している。	本人・家族が希望する医療機関の受診を支援している。受診にあたって、家族に利用者の状態を説明するとともに、受診結果と次回受診日を聞いている。また、毎週1回、協力病院からの往診があり、必要に応じて、受診結果を家族に連絡している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気付いた点はすぐ看護師に報告し、情報交換をこまめに行い、チームワークで介護を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、家族様との情報交換を頻回に行っている。看護も介護の一部と考えかかりつけ医師との連携、指導も大切にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の状況の変化に伴い、事業所でできることを充分説明し週末ケアの指針を持ち、本人、家族と話し合いながら方針を共有している。	重度化や終末期には、隣接の有料老人ホームや医療機関での対応になる可能性があることを入居時に説明するとともに、利用者の状態に応じて、医師・看護師と相談しながら、関係者間で方針を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や、事故発生時の対応をミーティングで話し合い、職員に指導している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回、防火訓練を実施している。地域の方にも参加を呼びかけ、訓練には参加していただき、訓練の後には問題点を話し合っている。	年に2回、いずれも夜間を想定して避難訓練を行っている。消防署や自治会長、民生委員が参加し、訓練後には課題を話し合っている。また、地域の防災訓練にも参加して、その内容を事業所で共有している。流動栄養食や経口補水液を備蓄として用意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者のトイレや入浴など、重ならないよう見守り配慮をしている。声かけに対してはミーティングで話し合い、利用者を尊重するよう努めている。	なるべく丁寧な言葉や動作で対応するようにして、利用者の誇りやプライドを傷つけないようにしている。居室にはのれんをかけたたり、トイレや入浴時には他の利用者と重ならないよう、プライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が、気兼ねなく自分の意見が言えるような環境、雰囲気作りをし、おやつ時間などは好きな飲み物を選んだりしていただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクリエーションなど、本人の希望を大切にし、入浴時間、順番なども要望を取り入れ一人ひとりの生活ペースを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の更衣の時は洋服を選んでいただいたり、散髪時にはご自分で髪型や長さを決めていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節を感じられるような盛り付けを工夫したり、利用者一人ひとりの好き嫌いを職員が把握している。また、おにぎりを一緒に作ったり野菜の皮むきなどできることをしていただいている。	ご飯とお汁は事業所で調理し、おかずは業者から配送されたものを提供している。利用者の嗜好に合わせて、代替りのものを用意することがある。時には事業所の畑で栽培した野菜を収穫し、利用者に皮むきや豆だしを手伝ってもらい、献立に一品添えるている。おやつ作りでは、どら焼きやベビーカステラ等を職員と利用者がいっしょに調理し、食している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスが偏らないよう、調理を工夫したり、楽しく食事ができるよう声かけをしている。水分の取りにくい方には、おやつ時間など手作りゼリーを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後口腔ケアを行い、必要に応じては歯科医に往診に来ていただいている。食事の前には、口腔体操を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排せつパターンを把握し、なるべくトイレで排泄を行うようにしている。また、その方に合った排泄しやすい姿勢などを職員と常に話しあっている。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、立位が難しい方も含め、トイレで排泄してもらうよう支援している。失禁時やお通じの確認についても、さりげなく声かけするように努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事やおやつを工夫をし、なるべく薬に頼らないよう運動やホットパックを取り入れ、自然な排泄を心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の状況に合わせた入浴設備を使用し、リラックスして入浴していただけるよう入浴時間に余裕を持っている。入浴時は同性介助を行っている。	入浴は週に2回、曜日や時間帯は決まっているが、その中で入浴の順番等、希望に応じている。身体状況に応じて、併設の有料老人ホームの浴槽を利用している方もいる。夏場は利用者の皮膚状態等により入浴回数を増やすこともある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一日の生活リズムを本人様にも把握していただき、疲れた時にはいつでも休めるよう声かけを行い、夜間はゆっくりと眠れるよう職員も静かに業務を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬について、本人や家族様が十分に理解できるよう説明し服用していただいている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの特技や好みを職員が把握し、一日の生活の中に、楽しみや役割が持てるようにしている。食べたい物や、やりたいことなど、日々の会話の中から情報を収集している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様の行きたい所やお店などアンケートを取り、外出の時には職員の数を増やし安全に外出できるようにしている。	日常的に事業所の畑や犬を見に外に出たり、近隣の散歩やドラッグストア等に行ったりしている。また、家族の協力を得て、散髪や墓参りに出かける利用者もいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物できる方には、買いたい物をご自分で選んでいただき、自己管理を支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事業所には携帯があり、本人からも家族様からも電話がいつでもできるようにしている。季節ごとには家族様に利用者からはがきなどを出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室以外でも、いつでもくつろげるようホールにはソファを置き、季節の音楽を流したり利用者が楽しめるような飾りをしている。清潔にも心がけ、事業所の職員が毎日掃除をしている。	内装に木や土壁を使い、昔ながらの民家を思わせる雰囲気である。プリザーブドフラワーや絵画、また季節の飾りつけが生活感や季節感を演出している。ホールや廊下にはソファを置くなど、利用者が思い思いに過ごせるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでも一人ひとりがテレビを観やすいようにしたり、利用者同士が楽しく話ができるよう座る場所を考えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の使い慣れた家具を使用したり、家具の配置は本人と家族様とよく話し合い決めている。エアコンの位置を考え室温調整のことや、プライバシーが保てるよう配置の時にはアドバイスをしている。	居室にも共用空間と同様、プリザーブドフラワーや絵画を飾り、潤いと生活感が漂っている。利用者はそれぞれ、使い慣れた家具や家族の写真等を持ち込み、居心地良く過ごせる空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、リビングなどからトイレや浴室に移動しやすいなど考え、なるべくご自分で移動できるような環境作りをしている。		